

このコーナーは育友会員、教員、学生のコミュニケーションの場として、皆様からお寄せいただいた原稿を掲載しています。日頃思うこと、育友会活動に参加しての感想など、ご自由にお書きください。

投稿を募集しています。  
応募方法は47頁をご覧ください。

## 会員寄稿

### 随想

# 貧しくとも…

育友会副会長 安部英助



学生時代はとにかくバイトばかりしていました。定期的な仕送りはなく奨学金をもらっていましたが、上京したては人混みが怖くて銭湯に行けず(!)、古いながらも風呂付きアパートに住んでいたため家賃で消えてしまいました。

私のバイト道における信条は「汗を流して稼ぐ」。周囲の仲間が「家庭教師は良いよ〜、ご飯食べさせてもらえることもあるし」などとのたまっているのを冷やかに聞き流し、(肉体派でもないのに)肉体労働にこだわっていました。1年次は授業が多くて全休日がなく、夕方以降の単発バイトを数多くこなしました。食品売り場の換気扇・下水管の洗浄や工事現場の警備員などなど。なかでも仲間内で有名だったのが某有名製パン工場の夜勤で、人遣いが荒く心身ともに疲労困憊しましたが一晩の仕事で1万円以上もらえ、さらにバイキング形式の社員食堂で腹一杯食べられる夜食と勤務明けの朝食が貧乏学生にはありがたく、その後こっそり社員用の大浴場も使わせてもらっていました。

2年次になるとバイトに丸1日充てられる日が確保できたので、引越しや配送のバイトも入れられるようになりました。ここで学んだのがトラック後部扉の閉め方です。あの観音扉を閉める時は、扉上部のフックがしっかり掛かっているかの確認が肝心なのです。これを知っていると「おっ、今日のバイトは扉の閉め方知っててラッキーだなあ」とドライバーさんに褒められ、昼ご飯をおごってもらえる確率が高まります。

3年次以降、集中的にこなしたバイトは測量でした。これは測量図を描き込む技師さんの横で、別の技師さんが持つ測量棒との距離を測る巻き尺の数値を読み上げる簡単な作業でしたが、1(いち)と7(しち)、9(きゅう)と10(じゅう)を聞き間違えないように7(なな)と10(とお)と読むようにしました。今思えば大したことはないのですが、当時の私なりに「相手がやりやすいように仕事をしよう」と考えた、精一杯の工夫だったと思います。

このように振り返ってみると常に金欠でしたが、あの頃の様々な経験を通じて社会で生きる術の基礎を学び、ちよっぴりですが自信を持つことができたと思います。

なに? 勉学の話が全く出てこない? いえいえ、きちんと授業に出て単位もしっかり取っていましたよ。授業から得たもの、友人関係から得たもの、バイトから得たもの、それぞれすべてが等価値の財産です。

私の父はよく「貧しくとも心豊かな人間になれ」と言っていました。子供の頃は「心豊かな人間」のイメージが漠然としていましたが、最近は「泥中の蓮」かな? と考えるようになりました。仏教では仏の悟りを、泥中に生えながらその泥に染まらず清浄な花を咲かせる蓮に喩えるそうです。まあ私の“悟り”なんて、そんな尊いものじゃございませんが…。ぜひ我が子には逆境でも腐らず、順境でも驕らない蓮の花のような人間に育ってほしいと(勝手に)願っています。